

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：やまかわさとみ事務所		
代表者氏名：野口 久（ひさ）		所在地：愛知県津島市天王通 6-66-2-1402
担当者情報	氏名：やまかわさとみ	所属部署：
	電話：08030718311	E-mail：hisakotoba@ybb.ne.jp
土木広報活動または作品名： やまかわさとみ（山川里海）の新作狂言		
広報活動または作品の概要		
<p>【 地域づくり・人づくりをテーマとする新作狂言の企画・創作・総合プロデュース 】</p> <p>■「100年後に残したい水辺の景観（土木遺構・史跡）・地域に所縁深いキャラクター（神・妖怪・生物など）」を徹底取材。小中学生の体験作文とアンケートに基づき、子どもたちが興味深く演じて、楽しく鑑賞できる新作狂言脚本を創作。</p> <p>■手法 その①「アマチュア子方起用の新作狂言」 能楽師が650年受け継いできたユネスコ無形文化遺産「狂言」の型と技芸を活用した演出法で、出演者は、狂言師＋囃子＋一般募集の子どもとする。オーディション募集段階から広報の機会とし、稽古風景もマスメディアに公開。</p> <p>■手法 その②「地域三世代で育成する子ども狂言」 狂言師・能楽師の指導をプロデュース。「やって楽しい・観て楽しい」を合言葉に、おばあちゃんの帯で装束を、おじいちゃんの日曜大工で能楽特有の大道具（柱や欄干）を制作してもらうなど、三世代が積極的に関わって、地域の魅力発信や他地域との交流ができる「子ども狂言」を創作育成。（現在、小学校3校、高校1校が継承。）</p> <p>■作品活用（企画提案・プロデュース・助成金申請・運営） 歴史的建造物（城郭）の復元式典 江戸期の兄弟藩交流（尾張藩×高須藩）（薩摩藩×高須藩） 水源林・ヨシ原保全・研修（水源林×汽水域） 上下流交流（水源域×下流都市） 新旧都市交流（清州×名古屋） 上下水道イベント（水辺能舞台）</p> <p>■広報：子方募集チラシ・公演チラシ・作品制作の背景・テーマに沿った有識者コメントを入れたパンフレット配布 ※告知・稽古の段階からマスメディアに取り上げられて盛況を博す。 NHK名古屋放送局、東海ラジオ、ケーブルTV 読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、毎日新聞、中日新聞、岐阜新聞、中部経済新聞、</p>		

●名古屋開府 400 年記念清州越し狂言「轍（わだち）」【テーマ：水辺の都市創造】

(出演：佐藤友彦・佐藤 融・今枝郁雄 他) (鑑賞者：約 1400 人)

2016 年 11 月 27 日「尾張×高須 葵の絆」(岐阜県海津市文化センター大ホール)

2017 年 2 月 2 日「名古屋城夢づくり狂言会」(名古屋能楽堂)



●なごや妖怪狂言「冥加さらえ」【テーマ：都市河川の浄化】

(出演：野村萬斎・佐藤融・井上松次郎・野村又三郎・竹市 学・久田陽春子・河村眞之介・加藤洋輝・他、一般募集の子どもたち) (鑑賞者：約 1800 人)

※ 子ども稽古 30 回

2016 年 5 月 15 日「冥加さらえ」子方オーデション+熊本復興講演会 (名古屋市中村文化小劇場)

2016 年 9 月 22 日 熊本復興応援「あいち戦国武将 LAB 特選狂言会」(名古屋能楽堂)

2017 年 2 月 2 日「名古屋城夢づくり狂言会」(名古屋能楽堂)

2017 年 6 月 4 日「なごや水フェスタ」(名古屋市鍋屋上野浄水場 水辺能舞台)



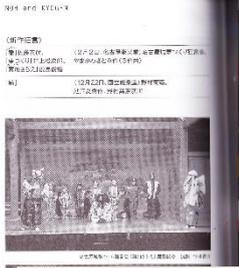
児童熱演 ひょうきん小河童
なごや水フェスタ 創作狂言が初上演

水邊間(1777)に 風の妖怪「おからね」や 合わせ、名古屋半種区「日酒女」手を組んで、 同市鍋屋上野浄水場で「冥加さらえ」を計画する 4日、恒例の「なごや水フ エスタ」が開催され、狂 言が初めて上演された。 古風、高貴、大町、瀬戸市 能舞台を模した特設ステ ージで、江戸時代の堀川の 川さらえ(しんせつ)に 着想を得たやまかわさと みさん(55) (津島市)の 新作狂言「冥加さらえ」 を、プロの狂言師に交じっ て小河童役の小学生たちが 熱演した。

「冥加さらえ」は龍神の 密命を受けて木曾の山奥か ら出てきた河童たちが、大 勢の人を集めよう、名古屋 水邊局の主権で、木曾三川 流域の自治体が特産品を販 売するマルシェ(市場)や 水に関わる様々なイベント が行われた。

新作狂言「冥加さらえ」で、 堀川に登場した妖怪たち





New Works for Kyogen

Wadachi, (The Wheel Furrows) with Sato Tomohiko, (February 2nd, Nagoya Noh Theatre) in the Nagoya Castle
Yume Tsukuri with Inoue Matsujiro and Myōga Zarae with Kashima Toshihiro (All written by Yamakawa Satomi).
Ayu (The Sweetfish) (December 22nd, National Noh Theatre) Nomura Mansai. Written by Ikezawa Natsuki and Directed by Nomura Mansai.

国際演劇年鑑 2018 掲載

日(土曜日) 中 楽子 屋

伝統芸能

創作狂言「冥加さらえ」

名古屋の歴史に根差した創作狂言三部作「榎一夢 つくり」(一)「冥加さらえ」(やまかわさとみ)が名古屋城めぐり狂言会上演された。このうち冥加さらえは、江戸時代

代々の堀川の川さらえを巡る奇想天外な妖怪メルヘン。離子舞など能の要素、堀川浄化の祈えも巧みに織り込んで、子どもも楽しめるケールの大きな立地狂言となった。(二)目、名古屋能楽堂)

木曾の竜神(佐藤友彰)に不老長寿の妙薬集めを命じられた河童太郎(鹿島俊裕)は、小河童を引き連れ、堀川端の化け猫おからねへ

「冥加さらえ」、手前左から井上松次郎、鹿島俊裕、野村文三郎、名古屋能楽堂、田村克也、高橋彰

人の欲望を吸って生きる疫病神の甘酒女たち(兵越同舟)の妖怪連合を組んで、汚れた堀川の底に小判を沈め、人々の欲望に火を付けて川さらえへ取り出す。巨体を揺らせて猫のしぐさをまねておからね。井上松次郎、不気味なユーモアを醸す甘酒女・野村文三郎ははまり役、上演を重ねて、手の内に入った演技だ。一般公募の小生生七人が演じる小河童たちはせりふ、所作ともよくそっくり、童謡的な雰囲気を感じさせた。

手の内に入れた妖怪役

やまかわの創作三部作は地元の史実と伝承を丹念に掘り起して、演出、振りの付けの表裏と共同で狂言の精製に話し込む。教育劇めいたく冥加の硬さは、なれを破る工夫があつてユニークだ。最終、子方が名古屋の各所に潜む妖怪、地蔵にふんしで縛り歩くのだが、心の古層に眠る物の怪たちが現れるように、物秘感すら漂った。(長谷義隆)

■手法 その② 【 地域三代で育成する子ども狂言 】

●木曾三川子ども狂言「失せうろこ」 【テーマ：治水史跡と清流魚の保全】(参加者・鑑賞者：約 2500 人)

★岐阜県海津市立大江小学校総合学習

指導：年間 12 回 上演：年間 5 回

- 2016 年 4 月 25 日、2016 年 4 月 25 日「治水神社大祭」(薩摩藩×高須藩)(岐阜県海津市治水神社)
- 2016 年 7 月 26 日、2017 年 8 月 10 日「上下流交流狂言会」(岐阜県中津川市かしも明治座)
- 2016 年 8 月 5 日、2017 年 8 月 4 日「名古屋城宵祭りオープニングセレモニー」(尾張藩 VS 高須藩)
- 2016 年 11 月 3 日、2017 年 11 月 3 日「かいづの狂言」(尾張藩×高須藩)(海津市歴史民俗資料館能舞台)
- 2017 年 3 月 4 日、2018 年 3 月 3 日「海津市文化祭客演」(岐阜県海津市文化センター大ホール)



●木曾三川子ども狂言「狐鬼灯」 【テーマ：輪中の防災と歴史観光】 (参加者鑑賞者：約 300 人)

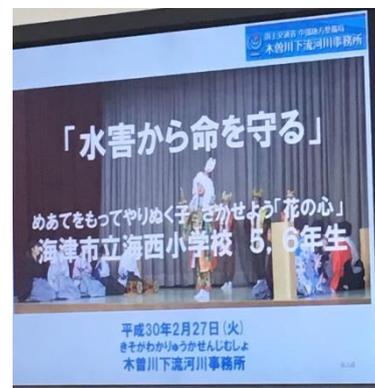
★海津市立海西小学校総合学習

指導：年間 12 回

上演：年間 1 回

2017 年 3 月 3 日「地域公開」(1 部公開) 海西小学校体育館

2018 年 2 月 16 日「地域公開・防災講座」(全編初演) 海西小学校体育館



●木曾三川子ども狂言「おそそ仁王」【テーマ：水郷の災害史と防災】 (参加者・鑑賞者：約 1100 人)

★愛知県あま市市民活動 指導：年間 12 回

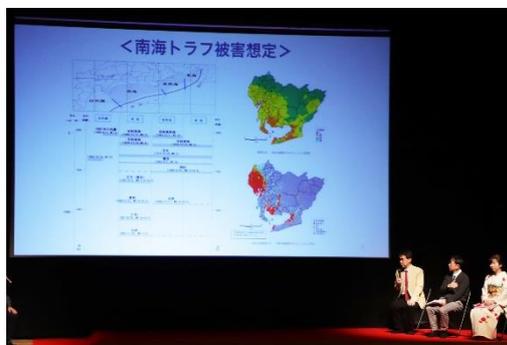
★愛知県あま市立正則小学校総合学習 指導：12 回

★愛知県立杏和高校 JRC 部 指導：5 回

2016 年 12 月 10 日「あま市市民活動祭」(あま市×名古屋市) (あま市美和文化会館大ホール)

2017 年 3 月 28 日「名古屋城桜まつり」(名古屋城×あま市)

2018 年 2 月 12 日「あま市子ども狂言プロジェクト能楽鑑賞+防災講演会」(あま市美和文化会館大ホール)





広報活動の効果

■参加者・観覧者（2016年4月～2018年3月） 合計 約9200人

■狂言は20～30分の短編喜劇なので、テーマ（魅力ある景観・キャスト・歴史・防災など）を伝える講演やシンポジウムなどのコラボレーションに適している。Eテレの「日本語であそぼ」で毎日野村萬斎が演じており、小学校の教科書にも掲出されているため、子育てファミリーにとって最も身近な伝統芸能だ。

■観覧者アンケートでは、92%が「地域の魅力を再発見できた」と回答し、78%が「自分の子どもや孫を出演させたい・自分も関わりたい」との好回答を得られた。

<自由回答より>

○子供達が演じるからこそ意味があると思いました。地域の景観の魅力を知り、又、親や小学校の先生方以外の大人（スタッフや関係の方々）と作品を作り上げていく体験は子供達にとって貴重な事だと思います。

○わかりやすくおもしろかった。短いのも見やすかった。作家の方の解説が面白くわかりやすかった。

○当地の魅力や歴史はもちろん、災害史を知ることのできる内容がとても良かった。

○地元で伝わる歴史や昔話をまったく知らないことがわかった。かやづ神社の「つけもの祭り」や「神のもの」の話もつい最近知ったので、おそそ仁王にできてうれしかった。

○伝統文化を通じて自分の住むまちの歴史や魅力を学ぶことは大変素晴らしいと思います。これからもがんばって下さい！あちこちで公演されると良いと思います。

○感動しました。これからも地域の文化として継承して行って下さい。これが本当のまちづくりだと思います。

付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）